全タ協連「第28回青年部協議会」に向けて――

特別インタビュー

「タイヤ組合のあり方」をテーマに

仲間意識を高める場として

全国タイヤ商工協同組合連合会（全タ協連）の「第28回青年部全国協議会」は7月19日、茨城県つくば市の筑波山ホテル青木屋で開かれる。茨城県タイヤ商工業協同組合青年部・主催による全国会議はこれが初めて。「同じ業界にいるのだが、普段なかなかお目にかかることのない人同士が一堂に集う場。貴重な機会だからこそ、参加者の仲間意識を高めたい」――主催者を代表し荒井功（あらい・こう）青年部長はこのように話す。（1面関連）

第28回青年部協議会会長
（茨城県タイヤ商工業協同組合青年部部長）
荒井 功氏

茨城県で初開催

――茨城県組合青年部が全タ青年部協議会の全国会議を主催するのはこれが初めてとなりますが。

「茨城県組合の今の理事長である皆川彦一さんは、理事長に就任する前、青年部長だったのですね。皆川さんが青年部長のときに茨城県で開催することが決まったのですが、その決定のあとで皆川さんが理事長に就くことになり、誰かが青年部長のバトンを引き継がなければならなくなったのです。

わたくしの父（荒井英雄氏）が茨城県組合の理事長を長く務めてきたこともあり、短い期間であればということで、青年部長の職務をお引き受けすることとなりました。ですから、皆川理事長をはじめ組合の関係者の皆さんのアドバイスをいただきながら、全国協議会の開催に向け準備を進めているところです。

茨城県組合でも青年部の活動を、という親組合の掛け声で始まったのですが、それが全国の会議を開くことになり、本格的に青年部としての活動に取り組んでいくようになりました。

ただ、最初はメンバーもほんの5人くらいで、これではとても全国の会議で皆さんをおもてなしすることなんてできないのではないか――そう思ったくらいでした。ですが、手分けをして、お声掛けしてみますと、『茨城でやるなら参加しますよ』『お手伝いしますから、何でも言ってください』とおっしゃっていただき、だんだんと多くの皆さんに参加していただけるようになってきました。これからに向けての一歩を踏み出すきっかけ、今までの殻を破るきっかけになったのではないでしょうか。

今では青年部のメンバーは15人くらいまで増えています。これはとても心強い。『茨城もまだまだ捨てたものじゃない』と、わたくし自身、非常に嬉しい思いを持っています。

茨城県で青年部協議会を開催するという方向性が打ち出され、主催するにはやはり、協議会がどういうものであるのかを勉強しなければなりませんので、皆川理事長とともに、わたくしもこれまで何度か、全国協議会に出席しました。

印象に残ったのは、昨年の『第27回全国協議会』ですね。『ダイヤ業界の〝不思議な商慣習〟を大きなテーマとして、グループディスカッション形式で話合いが行われました。実は、わたくしは茨城県の中小企業家同友会という異業種の中小企業経営者同士が交流する会に入っているのですが、そこでもグループディスカッションのスタイルがとられ、活発に意見交換が行われているのですね。

いくつか小さなグループに分けることで、参加者ひとり一人が必ず何かお話するように仕向ける。そうすることで、密に話ができると思うのですね。実際に昨年の会議では、谷典芳部長（当時）をはじめ愛知県組合青年部の皆さんのリードが上手で、中身の濃いディスカッションを行うことができたのではないでしょうか。

わたくしはそれに参加して、茨城県主催のときにもこのスタイルを取り入れて行うことができれば良いなと思いましたね。参加者ひとり一人が発言するほうが、ただ人の意見を聞くことに終始するよりもおもしろいはずですから」

小グループで話合い

――当日、グループディスカッション形式で話合うテーマを既に決められていますね。

「今回は組合そのものを大きなテーマにしようと思っています。『ダイヤ組合のありかた・良い点・悪い点・要望』をメインテーマに、ディスカッションを進めていきたい。

アイデアがまだ完全に固まった段階ではありませんし、参加人数によっても多少変わってくる部分もあるでしょうが、今のところ、1テーブルにつき7人～8人が入り、会議室全体で6つ～7つのテーブルがあるというようなイメージを描いています。

それぞれテーブルに、わたくしども茨城県組合青年部員が1人～2人入り、テーブルでのディスカッションをリードしていくようにする――それが実はとてもむずかしく、皆で研究しているところなのですが、工夫を凝らしてなんとかうまく進めたいと考えています。

各テーブルでそれぞれ『良い点』『悪い点』『要望』が挙がったら、具体的に列記してもらい付箋に書き上げ、その付箋を大きな紙に貼り付ける。そして、それぞれのテーブルで出された意見を全体に提示しながら発表し、それについて参加者が考察していく――これが会議の全体的な流れのイメージです。

組合のありかたがテーマですから、いわゆるメリットの問題が出て来るかもしれません。

ただ、わたくしは、組合にメリットを求めるのではなく、組合に入ってそこで自分がメリットと思えるものを見つけるべきだと考えているのですよ。

『組合はなにもやってくれない』『組合に入っていてもメリットが感じられない』と言ってやめていった人たちがいますが、わたくしはそうではなく、たとえば人との出会いがある、それだけで組合の大きな魅力だと思うのですよ。

自分ひとりだけでは気付かないことが多いのですから、人の意見を聞く、人の考え方を知るというのはとても重要なことではないでしょうか。ひとりのマンパワーには限界があります。たくさんの人たちが集まれば、一つの方向からだけではなくさまざまな角度からのものの見方があることがわかりますし、いろいろな知恵も出てきます。想像もしなかったことができるようになるかもしれない。そういう可能性を秘めていると思うのです。

今回の全国協議会はそういうふうに、人との出会いがある場、仲間意識を高める場にしたいと思っています。

ご参加いただく皆様同士の親睦を深める場としては、会議の終了後に懇親会場を設けています。そこではお酒と食事を楽しみながら、〝ぶっちゃけトーク〟で盛り上がっていただきたい」

茨城県の特色出す

――茨城県組合では先日、県との間で災害協定を結びました。またダイヤ空気充てん業務の特別講習の開催についても積極的に取り組んでいます。このような行政との関わり、あるいは安全・安心な社会の実現に向けての取り組みは地味ではありますが、組合そのものと組合の事業活動が地域に根差していなければ実現しませんし、実効あるものにもなりません。

災害協定の締結が拡がっていることをみますと、その意味においても今、このタイミングで組合のありかたを問うというのは、その存在意義を再考するのに絶好と言えるかもしれませんね。

ところで、開催場所ですが、筑波山を選ばれたのは意外だなと受け取ったのですが。

「これもいろいろと考えた結果です。茨城県での開催というと、電車でのアクセスを考慮しますと、やはり上野駅からの乗り換えに便利な水戸や土浦辺りが候補として挙がりました。水戸や土浦には会議を開くことのできるビジネスホテルもありますから。ですが、どうもありきたりの感じがあったのですね。

そこで皆川理事長や青年部関係者の皆さんと相談して候補地として浮上したのが筑波山でした。筑波山なら茨城県の〝色〟というものがよく表れていると思いますし、交通アクセスも秋葉原駅からつくばエクスプレス一本で行けますので、意外と集まりやすいのですね。そういうことで選んだ場所が筑波山の麓（ふもと）にある筑波山ホテル青木屋です。

19日にご参加いただく各県青年部関係者の皆様には、茨城県の観光名所である筑波山の雰囲気をぜひ、味わっていただきたいと思っています」

青年部の声を伝えたい

――では、19日の『第28回全国協議会』を前に、主催者を代表してひとこと、参加を予定している皆様にメッセージを。

「市販用のタイヤ販売には今、いろいろな問題がのしかかっていると思っています。たとえば、通販が非常に伸びていること。そういう収益面を圧迫する要因が多くあるのですね。そういうなかで、われわれができることというのは、横のつながりを持つことだと思います。一種のボランティア精神で組合の活動に携わることで、いつかはそれが何かの形となって返ってくるのではないか。商売もそうですが、人と人とのつながりがしっかりとできれば、人間関係は長続きしますよね。

協議会に参加する皆さん同士、力を合わせることによって、そのパワーは2倍にも3倍にもなると思うのです。ひとりで声を上げるより、多くの人たちで声を上げるほうが、世間一般に届くはずです。青年部の集まりから全タ、全タからタイヤ業界全体へ、そして社会一般へと、わたくしたちの声が伝わるようになれば良いなと思っています。

ご参加いただく皆様とは、仲間意識をさらに高めていきたい。有意義な会議にしたいですし、皆さんとの懇親を深めることのできる会となるよう、進めていくつもりです」

第28回青年部協議会（7月19日）

受付開始：14:00～14:20
協議会：14:30～18:00
懇親会：19:00～21:00
二次会：21:00～23:00
場：筑波山ホテル青木屋
（つくば市筑波753－1）